研究テーマ 看護技術の効果に関する行動生理学的研究

所属 大学院総合医薬学教育部

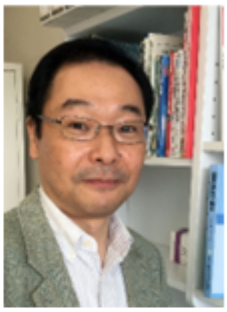
教授 堀 悦郎
https://researchmap.jp/ehori

研究分野	生理学　看護学　神経科学
キーワード	看護技術　情動　自律神経

研究室URL： http://www.med.u-toyama.ac.jp/behav/index.html

研究の背景および目的

手浴は、入浴できない患者の手指を清潔に保つための看護技術の一つである。しかし、その効果は清潔保持だけでなく、患者に快情動を導く効果も知られている。しかし、その生理学的エビデンスは乏しい。そこで、手浴の効果を生理学的に明らかにすることを目的に研究している。



■主な研究内容

これまでの研究から、以下のことが明らかとなっている。

- 「手浴には自律神経系のバランス調節作用がある」：これは、交感神経活動が高い時に、手浴はその上昇を抑制し、逆に副交感神経活動が高い時には、手浴は交感神経活動を上昇させる効果があることを証明した。
- 「手浴には前頭葉機能を活性化する可能性がある」：手浴中には、暗算の正答率が上昇することを見出している。すなわち、手浴により前頭葉機能が上昇している可能性がある。これを裏付けるデータとして、手浴中は前頭葉の血流上昇が証明されている。
- 「手浴は10分程度で十分である」：手浴の効果を期待して長時間実施しても、その効果は限定的である。むしろ、10分程度で十分である。これは、手浴による前頭葉の血流上昇をパラメータとして調べた結果、10分程度で血流上昇は頭打ちとなり、それ以上の効果は認められない。また、主観的にも長時間の手浴は疲労（湯あたり）を誘発するため、逆に前頭葉の機能としては低下する可能性もある。

期待される効果・応用分野

高齢化社会を迎え、認知症を含めて高齢者のケアは今後ますます拡充されるべき事項である。しかし、福祉に必要な予算は限られており、労働世代が減少する今後はさらに予算の削減が必要となる。このような社会において、お湯だけで前頭葉を活性化し、かつ快情動を誘発する手浴などの温熱刺激は、高齢者ケア一助となる可能性がある。今後は、その効果に関してエビデンスを蓄積していきたい。

■共同研究・特許など

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/etsuro-hori/